

科目名	地方経営と国家経営（1クラス・2クラス）
担当者	橋本大二郎
配当学期	春学期（1クラス）・秋学期（2クラス）
単位	2単位
授業概要	<p>グローバル化が進む中で、わが国は今、第三の開国を求められています。しかし、幕末から明治にかけての第一の開国や、太平洋戦争の敗戦に伴う、第二の開国とは違って、今回は、黒船やマッカーサーのような、目に見える相手がいるわけではありません。</p> <p>また、限られた列強や、先進諸国が相手だった、過去二回の開国の時と比べて、取り巻く国際環境は大きく変わっています。というのも、今では、お互いの国境の壁は、格段に低くなっていますし、世界の国々の市場も、すべて一つにつながっているからです。</p> <p>こうした、劇的な変化に対応するためにも、国は地方への関与から手を引いて、世界と国内に向けた、文字通りグローバルな、戦略作りに集中しなければなりません。それとあわせて、長年議論されてきた分権の問題も、国と地方との権限争いといった、内向きの視点ではなく、第三の開国に備えての国づくりという、新しい文脈でとらえ直す必要があります。</p> <p>地域主権を、改革の一丁目一番地と唱える、民主党政権が誕生した時には、これによって、国と地方との役割を仕分け直した、新しい国づくりが動き出すものと期待をしました。しかし、その期待は裏切られています。</p> <p>そこで、歴史的な政権交代から二年目を迎えた、民主党政権の足跡をたどりながら、分権型の国づくりが急がれる理由と、それを進めるにあたっての、地方経営と国家経営、それぞれに関わる論点を考えていきます。</p>
授業の到達目標	<p>地方経営にあたっての課題や問題点を、整理し理解して、対応の手法を、自ら考えられるようにします。</p> <p>分権型の国づくりが急がれている、時代的な背景を理解して、その実現を目指す動機付けを明確にします。</p> <p>政治や行政を目指す人に、特に求められる、バランス感覚を身につけます。</p>
授業計画	<p>(1) 自らが歩んだ時代の背景 ～現在との比較で～ あわせて、各授業で予定している内容を、ご説明します。また、受講者の方に、関心を持っているテーマと、将来の目標を伺います。</p> <p>(2) 第三の開国 ～第一・第二の開国との差異～</p> <p>(3) 事業仕分けの背景 ～自民党政治を支えたもの～</p> <p>(4) 公共事業の連鎖 ～ハッ場ダム問題が提起する意味～</p> <p>(5) 農業の明日を考える ～TPPで問われているものは何か～</p> <p>(6) 森は生きている ～水や二酸化炭素と絡めて～</p> <p>(7) 地方経営と企業経営 ～意識改革の必要性～</p> <p>(8) 合意形成の手法 ～事業達成のためには～</p>

	<p>(9) 公共サービスの担い手 ～新しい公共の可能性～</p> <p>(10) 選挙を通して考える ～田中三原則からマニフェストまで～</p> <p>(11) 大統領制か議院内閣制か ～知事と議会の力関係～</p> <p>(12) 数字に踊る政治 ～弱体化するマスコミ～</p> <p>(13) 地方の役割と国の役割 ～分散と集中の視点から～</p> <p>(14) 国と地方を分ける意味 ～第三の開国に向けて～</p> <p>(15) まとめ</p>
教科書	特に、教科書は使いません。
参考文献	必要な場合には、その都度ご紹介します。
成績評価方法	
試験 %	試験はしません。
レポート 50%	期の終わりに、レポートを提出していただきます。テーマは、その際にお示しします。
平常点評価 40%	意見交換の際に、積極的な発言があるか、他の人の意見を、きちんと吸収した上で、自分の考えを述べているかなど、日常の授業での対応を、評価の対象にします。
その他 10%	欠席の場合には、必ず事前に、理由も含めて、欠席することを知らせて下さい。事前の連絡がない場合には、マイナス評価の対象とします。
関連 URL	必要な場合には、適宜ご紹介します。
備考	毎週、真剣に取り組みますので、欠席の場合には、理由を含めて、事前に連絡を下さい。できるだけ、意見交換や討論に時間を割きますので、積極的な発言を期待しています。